

## 岡山芸術交流 2025 のアーティストティック・ディレクターを Philippe Parreno(フィリップ・パレーノ)に決定しました

岡山芸術交流実行委員会（会長：大森雅夫 [岡山市長]）は3年に1度岡山市で開催される国際現代美術展「岡山芸術交流 2025」のアーティストティック・ディレクターにフィリップ・パレーノを選任しました。

フィリップ・パレーノから、展覧会コンセプトを共有し、それを他者につなぐ「芸術的な通訳」という新しい役割の重要性を示唆されたことから、フィリップ・パレーノと旧知のなかであり作品世界の方向性に親近性をもつ島袋道浩（しまぶく みちひろ）氏が新設された「アーティストティック・トランスレーター」に選任されました。

アーティストティック・ディレクター フィリップ・パレーノ / アーティスト

### 【略歴】

1964年、アルジェリア生まれ。現在はパリにて制作活動。映画、彫刻、ドローイング、テキストなど、さまざまなメディアにわたる作品で高い評価を得ている。

近年の主な展覧会に2023年「Marilyn」 エスパス・ルイ・ヴィトン、ミュンヘン、2022年「Echo2: a Carte Blanche to Philippe Parreno」 Rotunda of the Bourse de Commerce、ピノーコクシオン、パリ、「La Quinta del Sordo」 プラド美術館、マドリード、2019-2020年「A Manifestation of Objects,」 (ワタリウム美術館、東京)、他。ヨーロッパをはじめ、アメリカ、日本、韓国を含むアジアなど各国の主要美術館、ギャラリーにて展覧会歴多数。



Photo © Ola Rindal

アーティストティック・トランスレーター 島袋 道浩 / アーティスト

### 【略歴】

1969年、神戸市出身。現在は那覇市を拠点に世界各地で活動。1990年代初頭より国内外の多くの場所を旅し、その場所やそこに生きる人々の生活や文化、新しいコミュニケーションのあり方に関する映像、彫刻、パフォーマンス、インスタレーション作品などを制作。詩情とユーモアに溢れながらもメタフォリカルに人々を触発するような作風は世界的な評価を得ている。



総合プロデューサー 石川 康晴 / 公益財団法人石川文化振興財団理事長

総合ディレクター 那須 太郎 / TARO NASU 代表

パブリックプログラム・ディレクター 木ノ下 智恵子 / 大阪大学 21世紀懐徳堂准教授

<会期>

2025年9月26日(金)～2025年11月24日(月祝)

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館し翌日休館）

<岡山芸術交流>

岡山芸術交流は、岡山市で3年毎に開催される現代美術の国際展で、2016年に第1回が開催されました。岡山城・後楽園周辺エリアの様々な歴史文化施設を会場に、世界的な現代アーティストの作品が展示されます。

**岡山芸術交流 2016(第1回)**

会期 2016.10.9 - 11.27  
アーティスト・ディレクター リアム・ギリック  
テーマ 開発 / Development  
参加作家/作品数 16か国から31組の作家 / 52作品

**岡山芸術交流 2019 (第2回)**

会期 2019.9.27 - 11.24  
アーティスト・ディレクター ピエール・ユイグ  
テーマ IF THE SNAKE / もし蛇が  
参加作家/作品数 9の国・地域から18組作家 / 38作品

**岡山芸術交流 2022 (第3回)**

会期 2022.9.30 - 11.27  
アーティスト・ディレクター リクリット・ティラヴァーニャ  
テーマ Do we dream under the same sky / 僕らは同じ空のもと夢をみているのだろうか  
参加作家/作品数 13か国から28組の作家 / 105作品

<岡山芸術交流実行委員会事務局>

(岡山市、岡山県、石川文化振財団)

岡山市北区大供 1-1-1 / 086-221-0033

[info@okayamaartsummit.jp](mailto:info@okayamaartsummit.jp)

<https://www.okayamaartsummit.jp/>

